

民衆の声  
ボイス

No.91

公明党 横浜市会ニュース

# VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL671-3023 FAX681-2060



安価でおいしく、栄養バランスの良い給食へ。

8割以上の生徒が利用しています。

給食化の実現で、横浜市市の責任が明確になり、生徒や保護者の安心感につながり、さらに利用しやすくなることを期待されます。

公明党は、保護者や生徒の皆さまから期待の大きい中学校給食の実現について、横浜市の実情を踏まえて唯一実現可能な、ハマ弁を進化させた\*デリバリー型給食の早期の実施を提唱しています。

## 「横浜型中学校給食」の実現へ前進!



2月21日の予算代表質疑では、竹内康洋・公明党市議団団長(神奈川区選出)が、中学校給食の実現など市政の重要課題について、林市長らの見解を質しました。

ハマ弁のノウハウを活かしなら成長期の子どもたちにとって栄養バランスの良い昼食を、全員が食べやすい環境を作ることが、最善の選択と考えています。

教育長は、「給食に位置づけることで、横浜市が献立作成や食材調達を担うことになり、国産比率の向上や地産地消の推進など、食材の充実も図られる」との見解も示しました。

昨年全国で発生した通学路などにおける自動車による未就学児や児童・生徒の死傷事件を受けて、公明党の要望により令和元年度補正予算に緊急対策の予算が盛り込まれました。

これにより、横浜市市の緊急点検で対策が必要とされた368ヶ所について、車止めやガードレールの設置、あんしんカラーベルト塗装などが図られます。子どもたちの安全確保へ、着実な実施を促して参ります。



## 通学路の安全対策が前進!

長年にわたる公明党の取り組みにより、昨年4月から対象が中学3年生まで拡大された小児医療費助成について、更なる対象年齢の拡大と所得制限の撤廃を求めてきましたが、令和2年度予算では所得制限緩和の検討を開始することが明記されました。

## 小児医療費助成の所得制限の段階的緩和へ

## 防災・減災対策が前進

### 感震ブレーカーの設置補助が拡大

令和2年度横浜市予算案を審議する予算特別委員会の総務局審査で質疑に立ち、防災・減災害対策などを取り上げました。

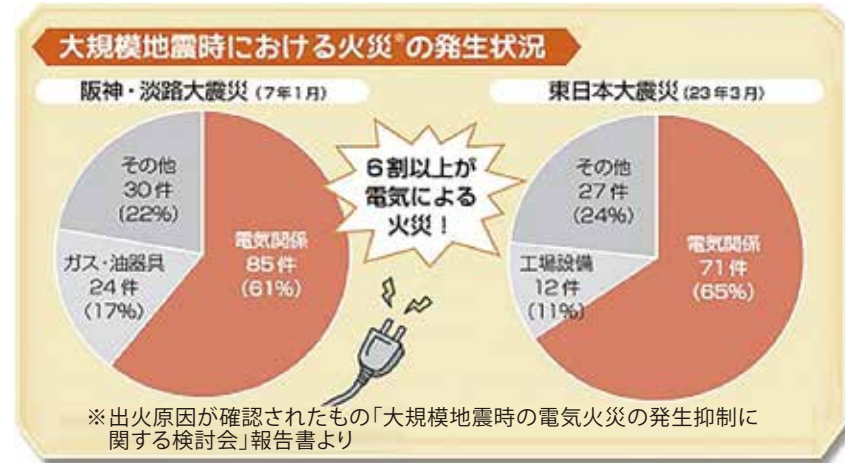
この中で、感震ブレーカーの設置補助に関する拡大内容が明らかになりました。感震ブレーカーは、設定値以上の地震が発生すると自動的に電気供給を遮断するものです。国の報告によると、阪神・淡路大震災や東日本大震災の原因が明らか火災の6割が電気に起因するものでした。感震ブレーカーの設置で家庭からの出火を防止することができます。

市は木造住宅密集市街地を対象に、自治会町内会の概ね10世帯以上から申し込みがあれば、感震ブレーカーの購入・設置費用の2分の1(上限2千円)を補助しています。

令和2年度は、従来の制度に加え、不燃化を進める「重点対策地域」\*に限り、手続きを簡素化し申込書1枚で自宅まで届けられ、高齢者のみ世帯等には器具の取り付けも支援されます。新たな制度対象地域の全世帯には、案内チラシがポスティングされます。また、説明会も開かれ、その場でも申し込むことが可能となります。



簡易タイプ感震ブレーカーの例



〈横浜市ホームページより〉

### \*重点対策地域(南区)

大岡一丁目~三丁目、庚台、唐沢、山谷、清水ヶ丘、中村町1丁目~3丁目、西中町4丁目、八幡町、伏見町、平楽、南太田一丁目、三春台、若宮町1丁目~4丁目

## 防災拠点の電源確保や通信環境を

災害時の情報収集や家族間の交信などにはスマートフォンが欠かせませんが、昨年の風水害の時のように停電の長期化も考えると電源の確保が課題となります。

モバイルバッテリーを準備するなどの自助努力は前提ですが、電源の確保が必要と主張しました。地域防災拠点に備蓄されている夜間照明用の発電機を日中にスマホ充電にも使用するなど、柔軟な運用を検討するとの答弁を得ました。

また、公衆無線LAN(Wi-Fi)などの通信環境の確保も要望し、確実な確保を検討するとの答弁がありました。



地域防災拠点に備蓄されている発電機



公明党横浜市議員団  
南区政務調査事務所 所長  
横浜市議員

仁田まさとし



仁田まさとし 検索  
メルマガの登録はこちらへ





# 政務活動最前線

## 南本牧はま道路の復旧工事を視察



2月10日、党神奈川県本部の上田勇代表と三浦信祐参院議員とともに、昨年の台風15号の被害により通行止めが続く南本牧はま道路を訪れ、復旧状況を確認し、関係者と意見を交わしました。昨年の発災直後には赤羽国土交通大臣も現地を視察し、早期の復旧を指示しており、2019年度補正予算に復旧費が盛り込まれ、今年5月の復旧を目指して工事が進んでいます。

## 建設進む新市庁舎を視察

2月25日、本年6月の供用開始を目指し建設工事が進む横浜市役所の新市庁舎を訪問し、低層階のオープンスペースや議員控室、傍聴席を増やした市会本会議場などを視察しました。新庁舎の整備により、20か所以上に分散していた市庁舎機能が集約され、市民の皆さまの利便性が向上します。



## ピンクシャツデー2020

2007年、カナダ・バンクーバーのハイスクールでピンク色のシャツを着た男子生徒がいじめに遭ったのを見た先輩が、「それならば、皆でピンクのシャツを着よう!」と呼びかけ、学校中がピンクに染まりました。ピンクのシャツを着ることで「いじめ反対」のメッセージを送るこのキャンペーンはバンクーバーがあるブリティッシュ・コロンビア州知事が2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」と宣言したことなどから、現在は70カ国以上で活動が行われています。

2月26日の市会本会議では、全議員が運動への連帯の思いを込めて、ピンクシャツを着るなどして審議に臨みました。



# 令和2年度予算特別委員会の論戦より

### 健康福祉局

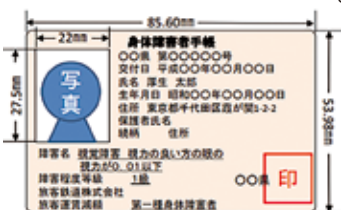
#### 『障害者手帳のカード化を推進!』



齊藤 伸一 (保土ヶ谷区選出)

「大きくてパスケースに入らず携帯しにくい」等の声を受け、公明党は障害者手帳をカード型にできるよう国に働きかけてきましたが、昨年、省令が改正され手帳のカード化が可能になりました。

横浜市でも令和3年度からのカード化に向けて準備していくこととなります。



そこで、「周囲から見えて障害者手帳と気づきにくいカードに」、視覚障がいを持つ方からの「触って分かるカード」との声にどのように答えていくのか確認しました。

局長からは、障がい者団体との意見交換を十分に丁寧に行っていく旨の答弁がありました。

### 子ども青少年局

#### 『子ども家庭総合支援拠点設置に向けて前進』



木内 秀一 (旭区選出)

国の「児童虐待防止対策体制強化プラン」では、令和4年度までに「子ども家庭総合支援拠点」を全市区町村に整備することを目標に掲げています。

公明党はこれまで、妊娠・出産から子育てまで切れ目ない支援の強化、児童虐待防止の観点から早期の設置を要望していました。

今回の質疑で副市長より、設置に向けた検討を進めるとの答弁がありました。

### 環境創造局

#### 『浸水リスクへの備えを強化』



久保 和弘 (瀬谷区選出)

近年の台風等による浸水被害の激甚化を踏まえて、内水ハザードマップの改定を求めています。



局長より「現在の内水ハザードマップは、1時間当たり76・5ミリを想定しているが、昨年観測された1時間当たり100ミリの降雨や関東地方での降雨実績なども考慮し、様々な強さの降雨で浸水シミュレーションを行い、改定作業を進める」との答弁がありました。



高藤 真二 (都筑区選出)

現地調査を行ってきた産地について、時間の経過で状態が変化していくことを考慮した対策を進めていく必要があることから、調査結果のカルテを定期的に更新するべきと提案しました。

局長からは、土砂災害「特別」警戒区域の新たな指定の進捗に応じて、カルテの追加や変更が必要な場合に再調査を実施し、計画的なカルテの更新に取り組む旨の答弁がありました。



### 医療局

#### 『乳がん対策の推進!』



安西 英俊 (港南区選出)

遺伝性の乳がん・卵巣がんの再発リスクを改善する治療である、予防切除や乳房再建手術などについて、公明党の要請により本年4月から保険適用される事となりました。そこで、乳がん連携病院の対応を促すとともに新たな取り組みについて質問しました。

局長より、遺伝性腫瘍では、遺伝カウンセリングをスムーズに紹介できるように、病院間の連携を促進すること。また、関係する看護師を対象に研修を行い、乳がん特有な課題解決に向けた知識・技術を身につけ、患者支援の質向上を目指すとの答弁がありました。

### 交通局

#### 『中学生の校外活動支援』



高橋 正治 (緑区選出)

4月1日よりスタートした、市営地下鉄の中学生校外活動支援運賃制度は、子育て・青少年施策の1環として要望してきた制度です。

質問では、校外活動を行う中学生が、市営地下鉄を小児運賃で利用でき、人数要件を設けないため、団体競技の活動だけでなく、個人競技の活動でも利用出来ることを確認しました。局長からは、100周年を迎える市営交通として、市営地下鉄をより身近に感じて頂くなど、大変意義があると答弁がありました。



### 消防局

#### 『救急需要対策の推進』



行田 朝仁 (青葉区選出)

令和元年中は21万2395件と、毎年増加を続ける救急車の出勤について、需要に着実に応える体制整備について質問しました。

副市長からは「効率的な運用方法である日勤救急隊を早期に整備するほか、インフルエンザや熱中症などにより救急需要が増加する時季を捉えた市民広報やケガの未然防止などの予防救急の推進、公民連携による救急体制の検討など、今後の救急需要を見据え対策を急ぐ」と答弁がありました。



### 建築局

#### 『がけ地の防災対策』



高藤 真二 (都筑区選出)

現地調査を行ってきた産地について、時間の経過で状態が変化していくことを考慮した対策を進めていく必要があることから、調査結果のカルテを定期的に更新するべきと提案しました。

局長からは、土砂災害「特別」警戒区域の新たな指定の進捗に応じて、カルテの追加や変更が必要な場合に再調査を実施し、計画的なカルテの更新に取り組む旨の答弁がありました。

### 文化観光局

#### 『横浜美術館大規模改修事業』



望月 康弘 (港北区選出)

大規模改修が行われる横浜美術館について、これまで以上に国際的にも評価される美術館を目指すべきと質問しました。

局長からは、今回の改修で、美術館として開かれた雰囲気づくりで、より親しまれる美術館とすること、さらに、効果的なプロモーションを行い、新しい価値を創造・発信し続ける美術館として、国内だけでなく、国外においても存在感を高めていくとの答弁がありました。

